

令和6年度 第1回伊賀市子ども・子育て会議 議事概要

日 時 令和6年5月31日（金） 午後2時～4時5分
場 所 伊賀市役所501会議室
出席者 富田会長、中井委員、米野委員、窪田委員、松田委員、山本(倫)委員、三井委員、
平野委員、百代委員、渡邊委員、福永(あ)委員、林崎委員、福永(悦)委員、佐治委員、
山本(い)委員
(欠席者 前川委員、山下委員、坂井委員)

開 会

◇出席者数の確認(15名/18名)と会議の成立について

◇会議の公開について

1. あいさつ

◇濱村健康福祉部長あいさつ

◇新任委員(松田委員、百代委員、福永(あ)委員、山下(悦)委員)紹介

◇資料の確認

2. 報告事項

(1) 第2期伊賀市子ども・子育て支援事業計画 令和5年度事業推進状況について

◇資料1、2及び追加資料説明(こども未来課主幹説明)

(質疑)

会長 ありがとうございます。前回から今回にかけて会議の変更点がある。1点目は、事前に意見、質問等を聴取し、回答を準備いただいた点。2点目は、モニターを設置していただいた点。3点目は、机のレイアウトである。会議の役割を話したが、伊賀市の子ども・子育てに関する参考意見をいただくということで、委員の皆さんとの意見交換を中心に進めたい。こども計画の策定もあるので、意見を活発にできればと思う。
ただいまご報告いただいた内容について、意見や質問があればお願いしたい。

※※委員 質問表の一番下の意見についてだが、児童館の使用も時間制限されているのか。未就学のこどもと母親のいるところだけが制限されているのか。

事務局 担当に確認させていただく。

※※委員 書いてあることは分かるが、遠いところから来て、機嫌が良くなったところで、1時間で帰らないといけないのであれば、親のリフレッシュができない。毎日そこに入り浸っているのなら分かるが、月に1度しか行かず、やっと行ったのにすぐに帰らなければならない。「帰りたくない」とこどもがぐずることもあり、帰る時に疲れてしまう。そういうところを考えていた

事務局 だけると嬉しい。

会長 利用者の目線での貴重な意見だと思うので、担当にも伝えさせていただく。

事務局 コロナが明けて日常を取り戻している。要望として承った。

※※委員 確認したところ、児童館については制限なしとのことであった。

事務局 児童館もそういう対応なのであれば、考えて頂きたい。

※※委員 児童館は未就学児は利用していない。児童館では教室を行っており、自ずと対象者は違うと思っている。

事務局 未就学児と小学生のこどもと一緒に遊べる場所は児童館ということだと思うが、伊賀市ではそうではないのか。

会長 現状はそうになっているが、担当に伝えて、使いやすくなるように話をしていきたい。

事務局 おそらく未就学児の利用を制限するものでは無いと思う。

会長 いただいたご意見に対しては、後日、まとめて回答させていただく。

事務局 そのほかにご意見、ご質問はあるか。

会長 では、次に進める。

3. 議 題

(1) 伊賀市子ども計画の策定について

◇資料3、4、5 説明（こども未来課主幹説明）

(質疑)

会長 資料3をみると、次期計画を「こども計画」と一緒にしようということである。そうすると、対象を乳幼児からもう少し幅広くとらえて考えていかなければならない。骨子案にあるような、基本方針や基本目標の5つというのは、国が示したものととの整合性があるので、大きくは変えづらい。ここで協議すると良いと思うのは、基本理念やキャッチフレーズである。「自然や歴史、文化に誇りを持ち、健やかに」ということで、こどもの人権については伊賀市は先進的に取り組まれていると思う。伊賀市のこどもの出生数は劇的に減っているが、起死回生はこの理念で可能になるのか。また、こども等の意見の反映とある。どの市町も思案している。これについても意見をいただけると良いと思う。

※※委員 ご質問、ご意見をいただけたらと思う。

事務局 資料3の3ページに 2019 年までの人口推移があるが、今現在はどれぐらいまで減っているのか。

※※委員 現在取りまとめ中である。これよりも減っている。

事務局 受け入れる人数はどれぐらいの用意があるのか。

※※委員 事業計画では、最新の数値で量の見込みを設定する。今後整理していく。

事務局 資料3の11ページに「ニーズ調査の結果に基づいての量の見込み」とあるが、「ニーズ調査」は園に通っていない人の意見もある。そちらを優先してしまうと、在園の保護者の思いがくみ取れない。給食室ができれば、管理

	栄養士が献立を考えてくれるが、弁当だと時間を調整できるので、こどもの学びの時間が取れる、という話を聞いた。園でも給食を取り入れたほうが楽だと思っていたが、こどもの学びの形が変わるのであれば、こどもを第一に考えて欲しい。先生や通っている人の思いについては、またアンケートを取るのか。聞いてもらえる場所があるのか。
事務局	園に通っている方にもアンケートで聴かせていただいている。量の見込みは見込みとして設定するが、施策については考えていきたい。園の先生の意見を聴く場としては、職員組合から意見を聴かせてもらっている。その中でどこまで施策として取り入れるかは検討していく。
会長	データの取り方、読み取り方として、伊賀市平均としてだけではなく、個別事情を読み取って欲しいということだと思う。
※※委員	基本理念にも「こども・若者」と書かれている。資料3の9、基本方針の説明に「ライフステージ」とあるが、視覚的に分かるというのは、何歳代という示され方をするのか確認をしたい。 こどもたちの声を聴くことについては、伊賀市全体ではアンケートに頼らざるを得ないが、昨年度、中学校代表の子が中学生議会を開いて、声を直接届けたと聞く。その1つとして、無料学習室として支援センターを利用できるようにしてほしいという意見もあった。そのあたり、アンケートで聞く内容と、地域のそういう場所で直接聞く内容もある。市民センターとも連携することが大事だと思う。市民センターごとに福祉ネットワークというのができ、地域の声を聴く場となっている。市全体ではアンケートだが、連携機関の中で、具体的にそういうものを取り上げていただけたらと思う。
会長	こどもの声を聴くということについては、全体の特徴を把握するのはアンケートだが、個別に直接聞く方法も合わせて取り入れるのは必要な方法だと思う。 ライフステージについてはどうか。
事務局	計画を冊子にすると分かりにくいので、出産から青年期まで一目で見て分かるものにして、PRできるようにしたいと考えている。
※※委員	こどもの声を聴くというのは、小・中学生ならばできる。5歳児になれば言える子もいるが、こども園には0歳児からいるので、保育士は言いたいことは感じるものの、本当に訴えているのかどうかは分からない。こどもの様子、ありのままの姿をしっかりと見ていくことが大事だと思っている。
会長	こどもの声を聴くということの難しさはお分かりの通りである。こども主体の保育を通じて、保育者が代弁することも可能なことであろう。
※※委員	今の段階では具体例がないので、質問するのも難しい。計画を拝見して、出生率も下がっていて、この数字を上げるのにどうしたら良いのかは悩ましいが、どういう施策を考えてくれるのか楽しみでもある。こどもの主体性を優先してくれるようになって、社会は変化していると思う。社会のル

ールがある一方で、そこは譲っても良いということを先生方もすごく見てくれている。労働条件の改善がなされれば、保育に従事したいという若い方も増えると思う。そういう施策が出てくるとありがたい。

会長 処遇改善、人材確保も重要な話題になってくると思う。

※※委員 資料をしっかりと見て、次回、考えてきたい。

※※委員 伊賀市のこどもが減っている現状を目の当たりにして、子育てしている親に寄り添って、伊賀市の宝であるこどもがよりよく育ち、出生率が上がってくるまちになるよう、良い方向に向けていただければと思う。

※※委員 基本理念の文章の中で、こどもから若者までを含んでいる。青年期まで活躍することによって、地域の力にもなってもらえる。年齢層も広がった中で、「子育てとは本来」という文章がこのままで良いのかどうか。下の文章も、「切れ目のない子育て」というのを何歳までとイメージするか。今までよりも広い対象年齢になるので、うまく表現できればと思う。

会長 年齢の幅が広がったことがもう少し分かりやすく表現されればと思う。

※※委員 こどもは急に大きくはならない。最初の種まきの部分として、文化薫る伊賀市として PR していくことがここに入ってくると思う。心の広さ、優しさといったものをどうやって育んでいくか。こどもが増える方法をチャンスとして打ち出していければと思う。

※※委員 出生率の減少の V 字回復は難しいと思うが、できるだけ子育てしやすい市になればと思う。移住が増え、都市間競争というか、周辺より伊賀市は住みやすいという地域になればと思う。企業も人手不足で苦しい状況にある。解決するには人がいないと成り立たない。良い計画を作っていただきたい。

※※委員 こどもの声を聴くということについて、総合の時間があるので、そこでこどもの声を聴く授業を多く取り入れると良い。地域食堂でこどもの声を聴くと、「学校では言えない」と言う。自分の意見を言えるようにならないと社会で助けてくれない。学校生活でも、自分の意見を言えることも大切である。

出生数が増えるには、特徴ある学校や園ができると移住が進む。農業に特化した小学校や園があればと思う。伊賀市にも愛農学園高校はあるのに、小・中学校にはない。そういうものがあれば、移住してくるのではないかな。地道なことを続けることで人は増えてくる。移住者は先に移住した仲間がいれば来る。少しずつ、そうやっていければと思う。統廃合が進む中で、特徴ある学校にすれば良いと思う。

※※委員 出生率のグラフは、国と比べてどれぐらいか分からないが、伊賀市の若者が伊賀市でこどもを産むという視点、親となる上で、我が町で産みたい、育てたいという視点が大切である。そういうことを考えたときに、情報も必要である。内にも外にも発信ができていくかどうか。こういう施策をやっているということを発信できればと思う。

※※委員 未来に希望が持てる社会であるために、大人が輝く姿をこどもが見られる

ようにすべきである。大人が楽しく過ごしていれば、こどもも大人になることを楽しみにできる。そういったことも計画に盛り込めればと思う。伊賀市は子育てしやすいところだということを発信していければと思う。V字回復については、1軒が5人産んでも微々たるものである。育てやすいまちだと思うが、そこをよりよくできたらと思う。

※※委員 出生数が気になっている。合計特殊出生率が下がっていると知って、V字回復は難しいと思うが、相談できる場所が欲しいし、それがあることが分かっていることが大切である。幼稚園で遅くまで預かってくれていることもありがたい。保育園と同じように誰でも預けられると良い。

※※委員 大山田の阿波地区は、10年、20年経って高齢者が増え、若い人が減って、どんどん人口が減り、こどもの数が減って、小学校も合併することになった。今、少し盛り返してきたように思う。子育て支援も、生まれる前から充実してきていると感じる。保健師、助産師が活動していることも聴く。子育てすることが幸せだろうと感じる。自治協でも、コロナ終息後は、運動会、夏祭りでこどもたちがどんなことをしたら喜ぶかを考えた。去年は夏祭りをして、市外に出ている人もこどもを連れて帰ってきた。県外からも帰ってきてくれたら良いと思う。こどもを大切にすることも考えていきたい。

※※委員 60年前は農業が中心で、幼稚園に入る前はおじいさんと山の中で遊んでいた。若い人が都市に出て行って、帰ってこない。人口流出がかなり増え、出生数が減っている。伊賀市に住むメリットがないと、人口減少が進んでいく。伊賀市に来てもらえるように、高校生までは無償化しようということも考えてもらい、他市に先行して、より人を呼び込んでいく。若い人が来てもらわないと人口は増えない。それをいかに定着させるか。子育てするにもお金はかかる。伊賀市としても企業とのつながりをもって、人を呼び込むことを考えて欲しい。

会長 ご意見、思いをお聞きすることができた。審議会としてまとまった意見とすることではないが、貴重な意見であるので、参考にしていただければと思う。

以上で、議題については終わりとしたい。

4. その他

◇事務局より、子育て支援施策の情報発信について説明

※※委員 数字はどうなっているのか。

事務局 これから先の取組である。給食費は実施中であり、そのPRをこれから行っていく。

※※委員 PRが大事なものは重々承知しているが、誰ひとり取り残すことが無いように、職人さんなど公的サポートが必要な方への公的支援の面もお願いしたい。全体的な面も、個々の支援の面も両面必要である。

※※委員 市内も市外も、広く発信してもらうことが必要だと感じた。従来通りの取組だと大きく変わらないと思う。早期に改善していきたいところはいち早く着手して、チャレンジしてみることも大事だと思う。費用はかかると思うし、現在、子育て中の方への施策も必要だが、未来への投資も必要である。この広報戦略は、「伊賀市はステキ、いいな」という発信になるので、市全体の広報戦略になり、PRにつながる。大きなメリットを感じている。応援したい。

※※委員 ターゲットを絞るというところで、「マチコミ」に送ってもらうと必ず保護者に伝わる。著名人にお金を使うぐらいならとなってしまうので、「マチコミ」を使ってはどうかと思う。

事務局 「マチコミ」にも流していきたい。

会長 その他に何かあるか。

※※委員 このことについてではないが、周産期医療を充実させて欲しい。一卵性双生児が産める体制を整えてもらいたい。今は津まで行かないといけない。リスクが高いといわれる。伊賀市にもあればと思う。

会長 では、マイクを事務局に返させていただく。

(終了)